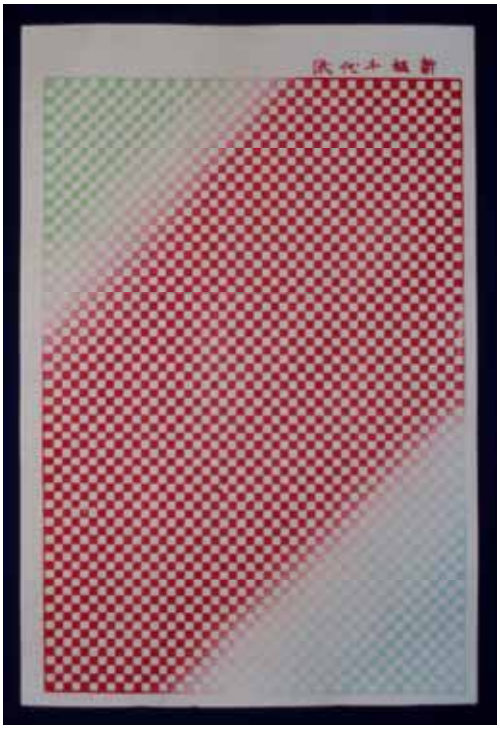
# 「幾何学文様のある千代紙」

## ◆石畳文

伝統的な文様のひとつで、石畳文と呼ばれていました。上方の歌舞伎役者佐野川市松が江戸の中村座で小姓役で着用した袴にこの文様をつけ、舞台衣装としたことから人気が出て市松文と呼ばれるようになりました。



石畳文をバックに蝙蝠と雲形の中に伝統的な文様の入った千代紙

雲形、蝙蝠の中には青海波や立涌、松皮菱、鱗など伝統的な文様が見えます

立涌→

←青海波

松皮菱→

←鱗

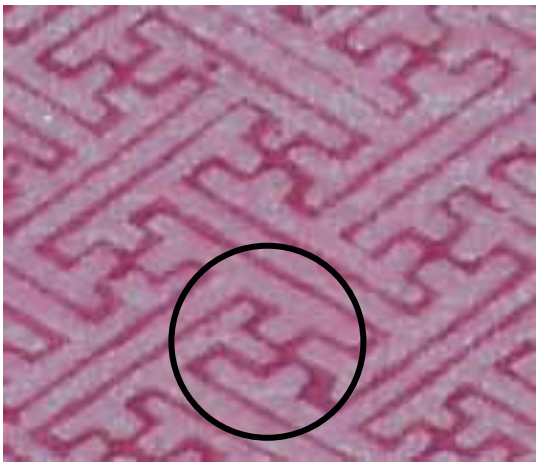
## ◆檜垣文

**檜の薄板を網代のように斜めに組んだ垣根を文様化したものです。**

背景に檜垣文様と石畳文様を組み合わせ、菊の花を散らした千代紙です。

## ◆万字つなぎ

卍形を崩して組み合わせ、連続文様としたものです。
絹織物の一つである紗綾の地紋に多く使われたので紗綾形とも呼ばれます。



拡大してみると「卍」がよくわかります

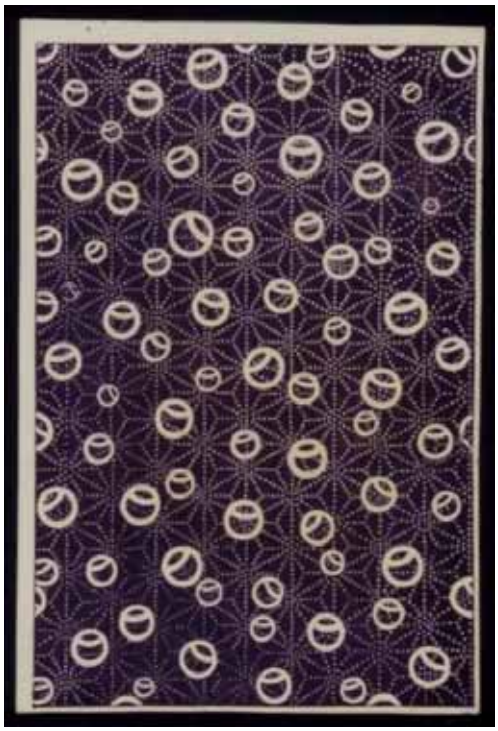
## ◆矢絣（やがすり）文

**絣は、染めた部分と染めない部分をところどころ一定の順序に従ってかすったようにして置いた文様です。絣の文様を矢羽根の形に表したものを矢絣文といいます。**

**矢絣文に菊を散らした千代紙**

桑の葉や繭、糸をつむぐ道具など養蚕に関するものがデザインされています。

## ◆麻（あさ）の葉文

正六角形を基調とした文様。図柄が大麻の葉に似ているので麻の葉文と呼ばれています。麻は丈夫ですくすくとまっすぐに伸びることから、子供の産着に用いる風習がありました。着物に限らず帯や襦袢（じゅばん）、袋小物に頻繁に用いられる文様です。

同じ麻の葉文でも様々なバリエーションがあります